

カラスガレイ 北西大西洋

Greenland Halibut, *Reinhardtius hippoglossoides*



管理・関係機関

1979年～現在 北西大西洋漁業機関 (NAFO)

(注) NAFO 条約海域に南北2系群があるが、本稿は日本 TAC 枠がある南系群域に関する情報。

生物学的特性

- 最大体長・体重：雄 90 cm・7.7 kg、雌 109 cm・14.1 kg。体長は下顎先端～尾鰭基底、体重は全重量（代表的な成長式及び体長・体長関係に基づく）。
- 寿命：最大寿命は雄 17 歳、雌 33 歳（研究例）。資源評価では 10 歳以上をプラスグループとして取り扱う。
- 成熟年齢：雄 9～10 歳、雌 12～13 歳（50%成熟年齢）。
- 産卵期・産卵場：周年（夏・秋に多い）。グランドバンク・フレミッシュパス（NAFO 海域 3LM）。
- 索餌期・索餌場：秋（10～11 月）に活発。グランドバンク・フレミッシュパス（NAFO 海域 3LM）。
- 食性：魚類（タラ、ゲンゲ、シシャモ、アカウオ等の幼魚）、甲殻類（エビ）、頭足類（イカ）等。
- 捕食者：シャチほか。

利用・用途

食用（生鮮・冷凍）で販売され、惣菜（煮つけ、ムニエル、ソテー、唐揚、刺身）や寿司ネタとして利用。

漁業の特徴

主に着底トロールで漁獲される。NAFO 発足以降 40 年間（1979～2019 年）の平均漁獲量の多い国はカナダ（40%）、スペイン（25%）、ポルトガル（14%）、ロシア（5%）、日本（5%）でこの5か国で全体の 89%を占める。

漁獲の動向

本格的な漁業が開始したのは 1964 年（4,300 トン）からで、漁獲量は 7 年後の 1970 年に 3.7 万トンとなり 9 倍以上に急増した。その後 3 回の漁獲量ピーク期（平均漁獲量各 3.6 万、5.4 万、3.2 万トン）以外は、減少傾向が続き現在に至っている。最近 5 年間（2015～2019 年）の平均漁獲量は 1.5 万トンで、3 回のピーク時平均漁獲量の 38%と低いレベルにある。

資源状態

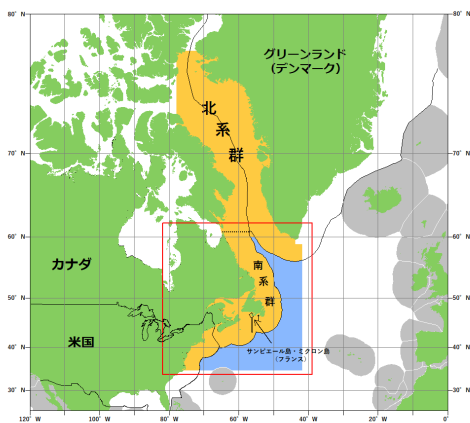
最新の資源評価は 2020 年 6 月の科学理事会で実施された。本資源評価の目的は、現在 TAC 決定に使用されている管理戦略評価 (MSE) のパフォーマンスをレビューすることである。資源評価は MSE のオペレーティングモデル (OM) で使用されている統計的年齢別漁獲尾数モデル (SCAA) 及び拡張型 SCAA 状態空間モデル (SAM) により実施された。本資源評価は MSE の OM で合意されたベースケースを用いて実施された。両者による資源評価結果に基づく神戸プロットを図に示した (1975～2019 年)。B は漁獲対象 (5～9 歳) 資源量。2019 年の資源状態は両者共にイエローゾーン (資源量は乱獲状況であるが F は MSY を下回りやや回復傾向) である。両者の大まかな資源状況の変遷傾向は似ているが、細かい動きは異なる。その理由は両モデルの異なるスベック (特に親子関係の有無) によるものと考えられる。

管理方策

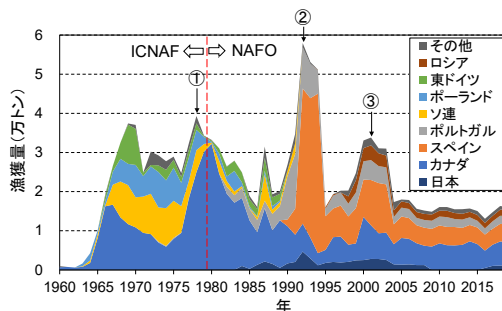
主な管理方策は MSE に基づくハーベストコントロールルール (HCR) で、2018～2023 年 (6 年間) の TAC 決定に運用。その他国別 TAC 枠、混獲・投棄規制、漁獲体長最小規制 (30 cm)、網目規制 (130 mm) 等。

カラスガレイ（北西大西洋）の資源の現況（要約表）*	
資源水準	低位
資源動向	横ばい
世界の漁獲量（最近5年間）	14,800～16,600トン 最近（2019）年：16,500トン 平均：15,620トン（2015～2019年）
我が国の漁獲量（最近5年間）	1,105～2,595トン 最近（2019）年：1,105トン 平均：1,954トン（2016～2019年）
管理目標	2037年までにB（漁獲対象資源）をB _{MSY} レベルに回復（MSEの管理目標）
資源評価の方法	SCAA 及び SSM（2019年までのデータによる資源評価）
資源の状態	神戸プロット黄色ゾーン（資源は乱獲状況にあるが過剰漁獲圧はなく回復傾向にある）
管理措置	MSE（HCR）、国別TAC枠、混獲・投棄規制、漁獲体長最小規制（30cm）、網目規制（130mm）ほか
最新の資源評価年	2020年
次回の資源評価年	2023年（2022年までの情報による資源評価）

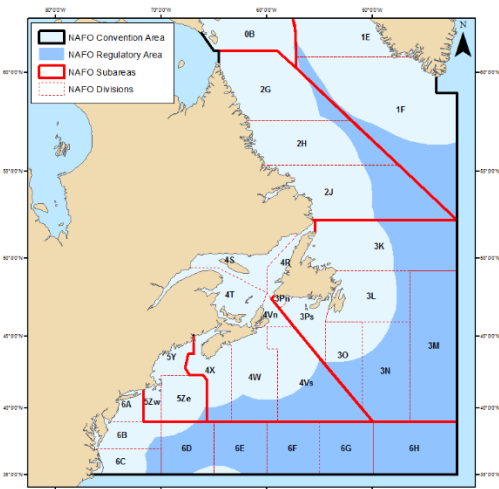
*（注）NAFO条約海域（南系群）操業域（統計海域2+3KLMNO）の情報に基づく



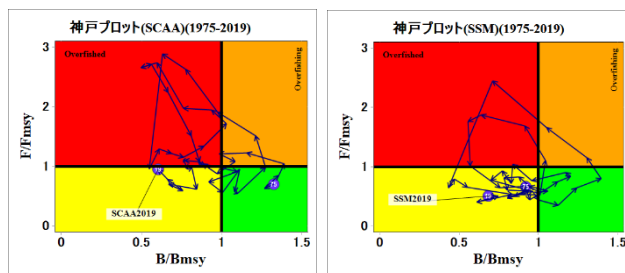
NAFO条約海域＝管轄海域（空色）＋EEZ（オレンジ色）
 （注1）カラスガレイには南北2系群あり、本稿では日本TAC枠のある南系群の情報をまとめた
 （注2）赤枠内の詳細は下図



NAFO条約域（統計海域2+3）におけるカラスガレイ国別漁獲量（1960～2019年）
 （注1）ソ連は1991年まで、1992年以降ロシア。東ドイツは1990年まで、それ以降（統一）ドイツの操業はない
 （注2）その他（累積漁獲量順）：フェロー諸島、西ドイツ（1990年まで）、仏領サンピエール島・ミクロン島、ノルウェーほか
 （注3）①、②及び③は、3回の漁獲量ピーク年を示す



NAFO条約海域南部の統計海域
 南系群操業域＝カナダEEZ内（海域2+3K）＋日本ほか加盟国TAC枠のある公海域（3LMNO）



SCAAとSSMによる資源評価結果に基づく神戸プロット（1975～2019年）